

海上抗議は当面中止

オール沖縄会議「喪に服す」

名護市辺野古沖の転覆事故を受け、辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議は17日、那覇市内で緊急の幹事会を開いた。海上での抗議行動を当面の間は中止することを決定し、安全対策や事故原因の究明に努める考えを示した。

「私たちの仲間が事故を起こしてしまい、若い高校生の命が失われた。皆さんに対しておわび申し上げます」。幹事会を終



えた幹部らは報道陣の取材に応じ深く頭を下げた。写真。事故があった船を管理していたヘリ基地反対協議会はオール沖縄会議の構成団体の一つ。辺野古新基地建設に反対するため協力してきた。

幹事会では、喪に服するため今週中は各地の抗議活動を自粛し、拡声器を用いた活動は3月末まで控えることを決めた。海上での抗議行動は船やカヌーを含め全面的に中

止する。今後の安全対策は、ヘリ基地反対協議会とともに、海上保安庁と協議する意向を示した。転覆した2隻は海上運送法に基づく事業登録がされていなかった。同協議会の福元勇司事務局長は「弁護士と確認したい。法的な問題がないようにしていきたい」と述べた。

幹事会には事故当時に「平和丸」を操縦していた船長も参加し、幹部らが当時の状況を聞いた。福元事務局長によると、船長が転覆した「不屈」を助けに向かおうとしたことなどが語られたという。

(長嶺晃太郎、南彰)